

芸妓さんに会える場所

芸妓の芸が鑑賞できる場はさまざま。古町芸妓が総出演する年に一度の舞台公演「新潟をどり」は、例年6月に市民芸術文化会館で開かれる(今年は改修のため9月に予定)。8月の新潟まつりでは山車に乗って踊りを披露するほか、民謡流しにも参加する。

低料金で楽しむには、新潟市中央区の補助事業「料亭の味と芸妓の舞」がお薦めだ。新潟市内の料亭で、昼食付きで舞の鑑賞、写真撮影ができる。例年5～7月や10～12月に開かれ、料金は5千円から。

お祝いや接待として芸妓をお座敷に呼ぶ場合、芸妓1人の花代は1時間9720円(新潟三業協同組合加盟店の場合)。伴奏付きで踊りを見たいなら最低2人は必要。事前に料亭に申し込む。柳都振興の中野進社長は若年層らも手の届く料金で楽しむ利用法の一つとして「食事を済ませた夜8時以降、おつまみ程度の食事と飲み物とともに芸妓を呼ぶと手軽に楽しめる」とアドバイスしている。

加盟店は柳都振興ホームページ(<http://www.ryuto-shinko.co.jp/>)に掲載。問い合わせは三業協同組合、025(222)2237。



「ここはお月さまを見て
いるように」「桜の花がい
っぱい咲いている場面だ
よ」。芸妓の稽古場である
三業会館(新潟市中央区)
で日本舞踊の師匠、市山
七世さん(68)の声が響い
ていた。指導を受けていた
のは、鹿児島県種子島出身
の若手、鹿兒島県種子島出身
の日本舞踊の師匠、市山
七世さん(68)の声が響い
ていた。指導を受けていた
のは、鹿児島県種子島出身
の若手、鹿兒島県種子島出身

日本舞踊に憧れ 県外Iターン組も

い女性が、少しずつではあるが、県外から柳都振興に就職している。
4歳のころから日本舞踊を習っていた千秋さん。新潟から遠く離れた島で、中学生のころにインターネットで柳都振興のホームページが目に入り引き込まれた。「働きながら日本舞踊がしっかりと勉強できる」。高校の時、卒業後の就職先として正式に決めた。会社組織のため、担任の教諭も就職に向け安心して対応したという。

高校時代から日本舞踊をした。1人は村上出身で習っていたかほりさんも就職活動中、高校のパソコンを探索し、柳都振興の募集を知った。「企業だから、両親にも説明しやすかった」と振り返る。
千秋さんが種子島に帰省するには約7時間かかる。新潟から東京に出て、飛行機を乗り継ぐ。「同級生も就職や進学で県外に出てい」と寂しさを感じさせない。今春は千秋さんらが待ち望んでいた後輩も2人入社していきい」と語った。



鹿児島県出身の千秋さん(左)と長野市出身のかほりさん。新潟市中央区

⑤化粧をしてお座敷に出る準備をする芸妓。稽古場の三業会館内に支度用の部屋がある＝新潟市中央区⑥芸妓が携える扇子や懐中時計などの小道具

